



9月号

平成29年8月29日

横浜市立東中田小学校

校長 天野 直美

TEL.802-0500 FAX.801-4089

WEBページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/higashinakada/>

「自ら生きる意欲」を引き出す

校長 天野 直美

校内巡回の途中、家庭科室に入ると5年生が裁縫をしていました。愛川宿泊体験学習で自分の持ち物に付けるネームプレートの作成でした。家庭科の授業が始まってまだ4ヶ月、裁縫道具を使い始めたばかりなのに、どの子どもも上手に名前のぬいとりが出来ていました。家庭科担当清水先生の話をよく聞き、みんな真剣に、一針一針丁寧に愛着をもって縫い進めていました。きっと愛川宿泊体験学習が終わった後も、子ども達は自分で作ったネームプレートを大切にするのだろう、そしてきっかけがあれば、何かをまた自分で作ってみようと意欲をもったのではないかと感じました。

私の趣味は編み物です。子どもの頃、周りの大人が編んでいるそばで余り毛糸をもらって少しずつ覚えしました。寒い雪の日など外で遊べない時は、何かを作ることが遊びでした。上手ではありませんが、楽しみながら続けています。最近は家族の注文を受けて作品を作り、使ってもらうことが生き甲斐にもなっています。自分でも着心地を確かめておかなければと、今は自分の靴下を編んでいます。靴下などお店に行けば安く履き心地のよい品物を手に入れることができますが、自分の力試しと気分転換を兼ねて、あえて取り組んでいます。そうすると、自分が壁にぶつかって悩んでいる時、自然に編み物を始めていることに気がきます。

その靴下は、梅村マルティナさんというドイツから日本にいらした編み物作家の本に載っている「平和の靴下」というものです。マルティナさんを知る最初のきっかけは手芸店で見つけたきれいな毛糸玉でした。マルティナさんが日本に紹介したその毛糸は、ゴッホの作品をモチーフにしており、編み進んでいくうちに、編み地がいろいろな色に変化するその毛糸で、孫のベストを編んだのですが、編み上がりがどんな風合いになるのかわくわくしながら最後まで編み続けることができました。

マルティナさんは東日本大震災の現状を見て、被災地で何か出来ないかと岩手県気仙沼市に毛糸を持ち込み、編み方を伝えるため避難所に向いて積極的に行動しました。毛糸を手にとった人々は編み物に没頭することで元気を取り戻したそうです。

「無心で編んでいる時、本当に幸せです。つらい時、何もする気力が起こらない時、編むことでとても気が楽になります。避難所で生活されている方々の中にも絶対そう思う方がいるはず。私が被災地のために出来ることはこれしかない!と思いました。」(梅村マルティナ オフィシャルサイトより引用)

この言葉に私自身の経験からも共感することができました。物資や生活支援以外に、人を助ける方法はいろいろあるのだと思いました。なによりの支援は「自ら生きる意欲をもたせる」ことだと思いました。

東中田小学校として、子ども達が迷い悩んでいる時にいくつかの選択肢から「こうしてみよう」と自分で意思決定できるような引き出しを増やすことができる教育活動の提供や支援に全教職員で取り組んでいけたらと考えます。